



Kobe Shoin Women's University Repository

Title	英語を母語話者とする日本語学習者におけるカタカナ語の研究—Tea とティーとお茶は同じなのか— Study of katakana for English Speakers Learning Japanese
Author(s)	池谷知子・久津木文 (IKEYA Tomoko・KUTSUKI Aya)
Citation	神戸松蔭女子学院大学研究紀要言語科学研究所篇 Theoretical and applied linguistics at Kobe Shoin , No.16 : 21-36
Issue Date	2013
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

英語を母語話者とする日本語学習者におけるカタカナ語の研究—Tea とティーとお茶は同じなのか—*

池谷 知子[†]・久津木 文[‡]

神戸松蔭女子学院大学 文学部[†]・人間科学部[‡]

tikeya[at]shoin.ac.jp[†]・ayakutsuki[at]shoin.ac.jp[‡]

Study of *katakana* for English Speakers Learning Japanese

IKEYA Tomoko[†] · KUTSUKI Aya[‡]

Faculty of Letters[†] · Faculty of Human Sciences[‡], Kobe Shoin Women's
University

Abstract

A foreigner learning Japanese has had a lot of difficulty for KATAKANA. Because, it is hard to distinguish English word from KATAKANA word. And there is synonyms in Japanese with KATAKANA.

This study looks into 18 Japanese learners of the English mother tongue speaker about 3 words; “Tea and OCHA” “Cap and BOSHI” “Gloves and TEBUKURO”.

I will examine the following two points.

1. The mapping of meaning about the English word and the KATAKANA.
2. The mapping of meaning about KATAKANA and synonyms.

日本語を学ぶ外国人が苦勞するものとして「日本語の中のカタカナ」が挙げられる。スーパーで同じ魚が「サーモン」「鮭」という二つの名前で売られているのに対して感じる日本語学習者の素朴な疑問、つまり、いつ「サーモン」と呼び、いつ「鮭」を使うのか、ということに対して明確に答えられる日本人は少ない。そこで本研究は以下の2点を明らかにすることを目的とし、英語母語話者の日本語学習者18人に対して調査を行った。

*この論文は日本私立学校振興共済事業団から平成24年度学術研究振興資金援助を受けた「日本語学習者におけるカタカナ外来語の理解についての研究」(研究代表者:久津木文)の調査結果の一部である。この調査では日本語母語話者と英語母語話者について同じような調査を行った。日本語母語話者について久津木が分析し、英語母語話者について池谷が分析した。

対象とする語は「Tea とティーとお茶」「Cap とキャップと帽子」「Gloves とグローブと手袋」である。検討課題は以下の2点である。

- 検討するべき点Ⅰ・・・英語の原語とカタカナ語の意味のマッピング
- 検討するべき点Ⅱ・・・カタカナ語と非カタカナ語（和語・漢語）の意味のマッピング

結果、日本語学習者はカタカナ語は日本語の語彙の一種であり、カタカナ語と英語は異なるものであることを認識していることがわかった。しかし、語彙によって習得が簡単なものと、難しいものの差があることが明らかになった。

キーワード: 意味のずれ 意味のマッピング お茶 帽子 手袋

Key Words: Gap of the meaning, Mapping of the meaning, Tea, Cap, Gloves

1. 研究の背景と目的

鳥飼 (2007) などでも指摘されているように、日本語を学ぶ外国人が苦勞するものとして「日本語の中のカタカナ」が挙げられる。外来語は外国から来たものであるので、日本人からすると、それがわかりにくいというのは意外に思うかもしれない。しかし、日本人が英語を学ぶ時に、カタカナ語と英語のズレが問題になることは良く指摘されている。

マンション…中高層の集合住宅 1960年代から急速に普及（広辞苑第 五版より）

Mansion…（豪華な）大邸宅、屋敷（ジーニアス和英辞典 第四版より）

英語を母語とする日本語学習者が、日本語のマンションという単語を学ぶ時、自分の知っている原語の Mansion とそれが異なることを認識し、さらに、その語が持つ意味範疇を定義し直さなければならないということが大きな問題になる。つまり、似ているのに異なるということが、逆に難しくしているのである。

これを裏付けるように、陣内 (2008) でもカタカナ語の習得に困難さを感じるのは、学習者の母語によって大いに異なることが述べられている。また、日本語教育におけるカタカナ語の現状として、中山 (2008) でも指摘されているように、学生はもっとカタカナ語を教えて欲しいと望んでいるのに対し、教師側はカタカナ語が日本語の一部だという認識が薄い上に、カタカナ教育に時間がとれていないことも指摘されている。

カタカナ語を説明することは一見、語彙の問題であり単純に見えるが、スーパーで同じ魚が「サーモン」「鮭」という二つの名前で売られているのに対して感じる日本語学習者の素朴な疑問、つまり、いつ「サーモン」と呼び、いつ「鮭」を使うのか、ということに対して明確に答えられる日本人は少ないだろう。なぜならカタカナ語と和語や漢語の使い分けは辞書には載っていない問題だからである。

これに対して答える為には、英語の原語とカタカナ語のズレを知るだけではなく、さらにカタカナ語とそれと類語関係にある言葉との意味のマッピングがわかっていなければならない。

英語の原語と日本語のカタカナ語のズレについて、日本人が英語を学ぶ点からは、佐藤 (1994) 『外来語と英語のズレ-英語を学び、使う人のために-』のような研究が多数見

られるが、逆に、日本語学習者が「ティー」と「TEA」の違いをどのように認識しているのか、また、「ティー」と「お茶」をどのように認識しているのかということについて客観的に調査した研究はあまり見られない。

そこで本研究は以下の2点を明らかにすることを目的とし、英語母語話者の日本語学習者18人に対して調査を行った。

- ① 英語母語話者の日本語学習者を調査し、カタカナ外来語と英語の意味の違いを分析する。
- ② 英語母語話者の日本語学習者がカタカナ語とその類義語（和語や漢語）との意味のマッピングについてどのように認識しているかを調査する。

外来語には漢語とカタカナ外来語の二種類があるが、この研究ではカタカナで表され、かつ英語由来の単語のみを調査の対象としカタカナ語と呼ぶ。

2. 調査の概要

2.1 調査対象者

英語母語話者はアメリカのD大学で日本語を勉強している学生18名で、内訳は男性8名、女性10名である。年齢は20～26歳（平均20.7歳）で2012年の7月にK大学における1ヶ月の日本語のプログラムのため、来日している時にアンケートを行った。学年は3～4年生で、日本語学習歴の平均は2.35年であった。

表1: 調査対象者のまとめ（2012年7月にデータ採取）

1 性別	D大学の学生 男性8名 女性10名 合計18名
2 年齢	20～26歳 平均→20.7歳
3 学年	3～4年生
4 いつも使っている言語	英語 日本語
5 母語	英語
6 日本語レベル	初級8名 中級9名 上級2名
7 日本語学習時間	1年～6年 平均→2.35年

2.2 調査方法

ティーを例に挙げて説明すると、まず、カタカナ語の「ティー」と、日本語の「お茶」を知っているか確認する。次に、同じカテゴリーに属しそうな6枚の写真を並べ、それぞれに対して「ティー」「お茶」「Tea」と呼んでも良いと判断する程度問う。回答は「① Never（まったく**を使わない）」「② Sometimes（どちらかというとき**を使わない）」「③ Often（どちらかと言うとき**を使う）」「④ Always（常に**を使う）」という4つのスケールから答えを選んでもらうというリッカート法で答えてもらった。

また、その対象物を Tea 以外の言葉で呼ぶ場合は、空欄に記入してもらおう。このような質問を次の 13 個の事物について行った。これらの事物は英語を由来とするカタカナ語であり、かつ、それに対応する日本語の類語があるものである。

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|---------|
| ① brush | ブラシと筆 | ⑧ boots | ブーツと長靴 |
| ② tea | ティーとお茶 | ⑨ gloves | グローブと手袋 |
| ③ dress | ドレスと衣装 | ⑩ noodles | ヌードルと麺 |
| ④ pot | ポットと急須 | ⑪ bottle | ボトルと瓶 |
| ⑤ slippers | スリッパと部屋履き | ⑫ potato | ポテトと芋 |
| ⑥ scarf | スカーフと襟巻き | ⑬ ticket | チケットと券 |
| ⑦ cap | キャップと帽子 | | |

3. 対象語に対する認知度

まず、カタカナ語（ティー）とそれに対する和語や漢語の類語（お茶）の使い分けを知る前に、日本語学習者である被験者達がそれらの単語を知っていなければならない。これにはいくつか問題がある。被験者の学生はアメリカの大学生であり、日本での生活経験がない学生が多い。かつ、彼らが触れる日本語のほとんどが日本語のテキストであり、そのテキストの中に、「芋」「衣装」「急須」「部屋履き」「襟巻き」といった単語が出てくることは少ないことが予測される。また、カタカナ語であっても「ボトル」や「ポテト」が日本語に入っていることを知らない可能性もある。そこで、被験者が対象とする単語をどのくらい知っているかを知るため、まず、調査する予定の単語についての認知度調査を行った。日本語の該当する単語には漢字表記と同時にルビをふって、それを知っているかどうかを Yes または No で答えてもらった。カタカナ語に対する類語には和語と漢語の両方が混じっているが、非カタカナ語ということで、便宜的に「和語」と呼ぶことにする。

ブラシ、筆を例として、その単語を知っているかという調査の質問文を示す。

質問文の例

- 1) Do you Know the Katakana word “ブラシ” (burashi) in Japanese? Yes / No
- 2) Do you Know the Japanese word “筆(ふで)”? Yes / No

それぞれの単語について表 2 (p. 25) のような結果となった。

カタカナ語の認知度の平均は 88.7 % で和語の平均 43.3% と比較してかなり高いことがわかる。カタカナ語で認知度が 100% だったものは、⑩ ヌードルと ⑬ チケットの 2 つだった。一方、和語で認知度が 100% だったものは ② お茶だけであった。

このように、カタカナ語の認知度は高いが、英語話者にとってどの単語が日本語に入っていてどの単語が日本語に入っていないのは判別するのは難しい。そのため、カタカナ語でも「知らない」単語が存在する。例えば、⑦ のキャップ (82%) と帽子 (94%) では、和語である「帽子」の方が高い認知度を示している。また、別の問題として、今回、英語と日本語を並べたので、ブラシ = Brush とすぐに結びつけることができたが、耳で

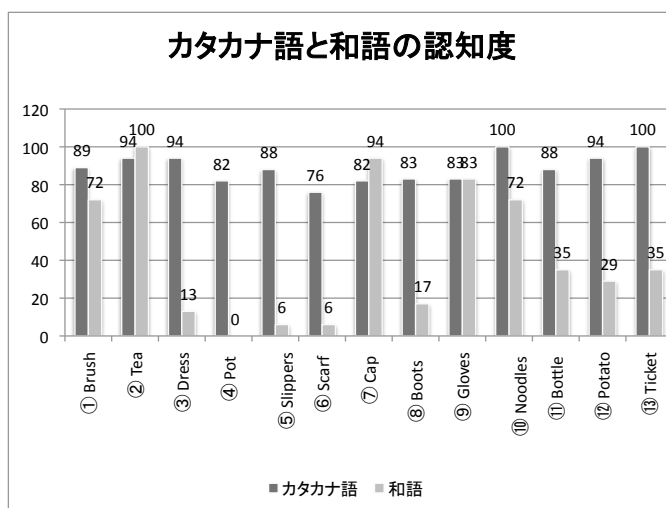
表 2: カタカナ語と和語の認知度

	カタカナ語		和語		
①	Brush	ブラシ	89%	筆	72%
②	Tea	ティー	94%	お茶	100%
③	Dress	ドレス	94%	衣装	13%
④	Pot	ポット	82%	急須	0%
⑤	Slippers	スリッパ	88%	部屋履き	6%
⑥	Scarf	スカーフ	76%	襟巻き	6%
⑦	Cap	キャップ	82%	帽子	94%
⑧	Boots	ブーツ	83%	長靴	17%
⑨	Gloves	グローブ	83%	手袋	83%
⑩	Noodles	ヌードル	100%	麺	72%
⑪	Bottle	ボトル	88%	瓶	35%
⑫	Potato	ポテト	94%	じゃが芋	29%
⑬	Ticket	チケット	100%	券	35%
	平均		88.70%		43.30%

聞いただけでそれがすぐにブラシとわかるか、あるいはそれが文中で単独で使われたときにすぐに認識できるのかは、もっと詳しく調査する必要があるだろう。

議論をやすくするため、表 2 をグラフ化したものを表 3 (p. 25) とする。

表 3: カタカナ語と和語の認知度



和語で認知度が高いもの（70%以上あるもの）について、リーディングチュウ太¹という語彙のレベルチェックをするサイトで、それらの単語が日本語能力試験（旧1級～4級）のどのレベルにあたるのかをチェックした。レベルは1級が1番難しく、それから順に下がっていき、4級が1番下のレベルになっている。

- ② お茶 100% → 4級 ① 筆 72% → 2級
 ⑦ 帽子 94% → 4級 ⑩ 麺 72% → 2級
 ⑨ 手袋 83% → 3級

この結果から、語彙認知のパーセンテージと日本語能力試験のレベルは正の相関関係を持っていることがわかる。

一方、和語で認知度が低いものは次の単語であった。

- ④ 急須 0%
 ⑤ 部屋履き 6%
 ⑥ 襟巻き 6%

これらはすべて1級の範囲外の「級外」の単語になっていた。つまり、普通にテキストで日本語を勉強しているだけでは、習うことがない単語であるため認知度が低いのである。

これらのことから、和語については日本語のレベルと認知度には明らかな相関関係があることがわかる。4級レベルの語彙であると認知度が限りなく100%に近く、レベルが上がるにつれて認知度が下がるのである。

ところが、カタカナ語に関してレベルチェックをしてみると面白ことがわかった。13個中7個の単語が級外の単語なのである。表4参照。

表4: カタカナ語の語彙レベル一覧

級外 (7つ)	ティー、キャップ、グローブ、ヌードル、ボトル、ポテト、チケット
1級 (2つ)	ポット、ブーツ
2級 (3つ)	ブラシ、ドレス、スカーフ
3級 (なし)	
4級 (1つ)	スリッパ

その上、級外であるヌードルとチケットが100%の認知度を示したのに対して、1番レベルの低い4級のスリッパは88%の認知度であった。この逆転現象は、1章でも述べたようにカタカナ語が日本語のクラスの中で体系的に習得が行われていないことを示すのと同時に、英語母語話者なので英語由来のカタカナ語は日本語のレベルに左右されずに理解できることが考えられる。もし、これが英語母語話者ではない日本語学習者にカタカナ語について尋ねたならば、レベル別に認知度が上がる可能性があるだろう。

¹<http://language.tiu.ac.jp/tools.html>

4. 考察の対象とする語の選定

これから英語の単語と、それに対応するカタカナ語と類義語関係にある和語や漢語の意味のマッピングを見ていく。1章でも述べたが、本論文で検討すべき点は2点ある。

- 検討すべき点Ⅰ・・・英語の単語とカタカナ語の意味のマッピング
- 検討すべき点Ⅱ・・・カタカナ語と和語の意味のマッピング

検討すべき点Ⅰの中には、そもそも英語母語話者がカタカナ語を英語とは別物として捉えているのか、それとも、英語と同じものとしてとらえているのかをということも検討課題の中に入っている。

また、検討すべき点Ⅱについて考察するためには、カタカナ語とそれに対応する日本語の両方を知っている必要がある。つまり、認知度は76%あるスカーフに対して、認知度は6%しかない襟巻きのようなペアは、意味のマッピングが起こらないため、検討から外す必要がある。

そこで、カタカナ語と日本語の単語の両方の認知度が高い組み合わせ（80%以上ある組み合わせ）をリストアップし、以下の3つの単語の分析を行う。

- ② Tea → ティー (94%) とお茶 (100%)
- ⑦ Cap → キャップ (82%) と帽子 (94%)
- ⑨ Gloves → グローブ (83%) と手袋 (83%)

5. 分析

これから、英語母語話者の日本語学習者がどのように認識しているのか順次分析を行う。分析の手順としてはまず、英語の単語とカタカナ語の意味のマッピングがどうなっているのかを観察し、次に、カタカナ語とそれと類義語になっている和語との意味のマッピングを観察する。

5.1 Tea → ティー (94%) とお茶 (100%) についての分析

表5 (p. 28) のようにお茶のカテゴリーに入りそうな事物の写真を6枚並べ、それについてそれぞれ尋ねた。また、もし英語でTeaを使わない場合は、どのように言うのか記述してもらった。回答は「① Never (まったく**を使わない)」「② Sometimes(どちらかという**を使わない)」「③ Often (どちらかという**を使う)」「④ Always (常に**を使う)」という4つのスケールから答えを選んでもらうというリッカート法で答えてもらった。

英語母語話者がA～Fの対象物を見て、日本語でティーを使うかという問いに対する結果を表6 (p. 28) にまとめた。それと比較するために英語でTeaを使うかという問いに対する結果を表7 (p. 29) にまとめた。

表 5: Tea とティーとお茶で示した図






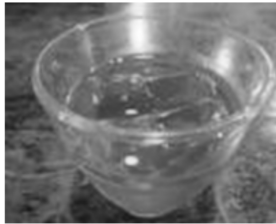
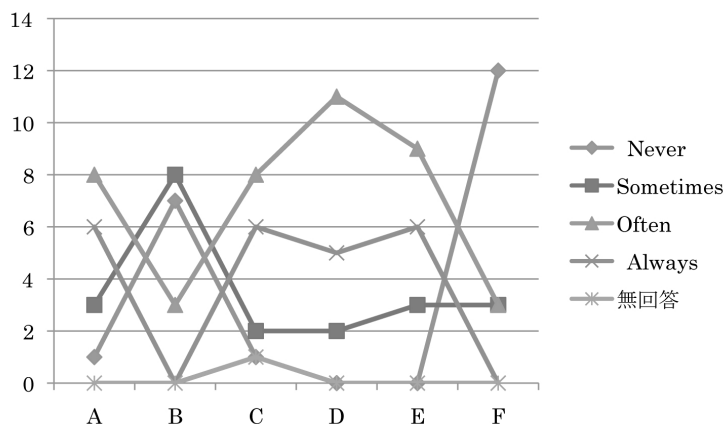
A	B	C
 Hot English tea with lemon	 Hot roasted green tea	 Iced English tea
D	E	F
 Hot English tea with milk	 Hot English tea	 Iced roasted green tea

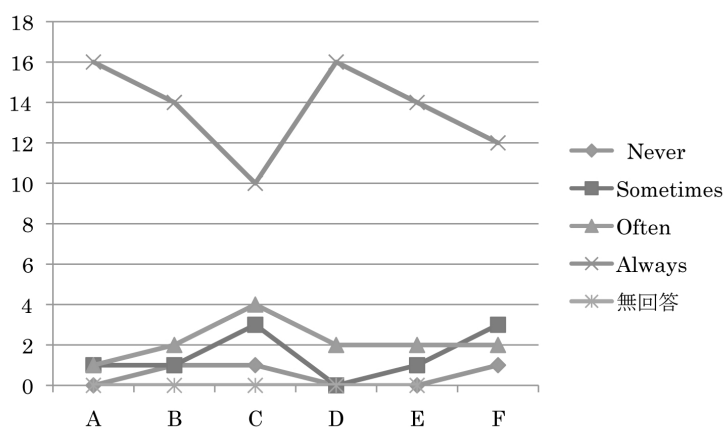
表 6: 対象物に日本語でティーを使うかという質問に対する結果



横軸が対象物 A~F を示しており、縦軸が 18 人中その答えを選択した人数を示している。

表 6 (p. 28) と表 7 (p. 29) の図形を比較してみるとかなり異なることがわかる。つまり、学習者はカタカナ語のティーと英語の Tea を全く別のものとして認識している。対象物 A~F のすべての対象物に対して Tea を使えると答えた学習者は多い。ただ、その中で対象物 C のアイスティーと対象物 F 冷たいほうじ茶に関しては Always (常に使う) を選ん

表 7: 対象物に英語で tea を使うかという質問に対する結果

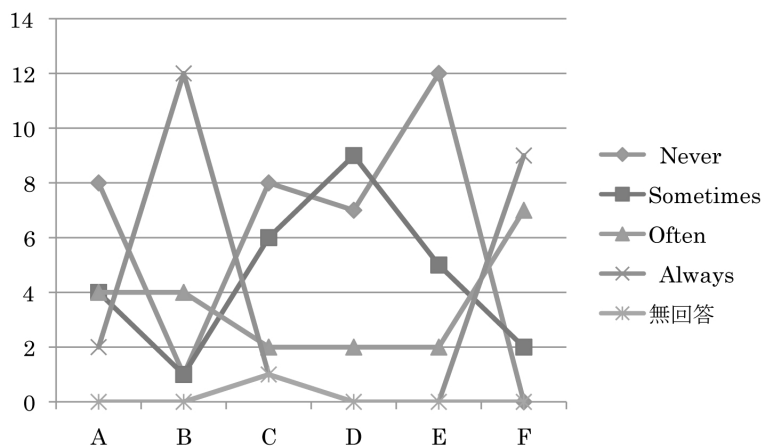


だ人がやや少なくなっている。やはり、英語において Tea の典型例は暖かい物であるのであろう。自由記述の所にも「使える」としながらも iced tea を使うと書かれたものが多かった。

それに対してティーは、かなり結果が分かれている。中でもはっきりした結果が出たのが、対象物 F の冷たいほうじ茶に対しては Never (全く使わない) を選んだ人が 18 人中 12 人 (67%) もいたことである。対象物 C のアイスティーには肯定的な回答した人が多かったので、冷たいからというわけではない。また、対象物 B の熱いほうじ茶に対しても、Always(常に使う)を選んだ人は 0 人だった。

これを表 8 (p. 29) のお茶の結果と合わせて考えてみる。対象物 B の熱いほうじ茶と対象物 F の冷たいほうじ茶に注目して欲しい。

表 8: 対象物に日本語でお茶を使うかという質問に対する結果



ここからわかることは、対象物 B と対象物 F は Often と Always を合わせて 89% の人が「お茶」を使うことに肯定的な回答をしている。つまり、「お茶」というのは「日本的なものを示す」という基準で使い分けをしていることがわかる。

5.2 Cap → キャップ (82 %) と帽子 (94 %)

次に帽子と手袋を順番に見ていくことにする。

英語では日本語の帽子で表されるものに hat と cap の区別があることが知られている。『ロングマン現代英英辞典 第四版』での記述を引いてみる。(強調は筆者による)

hat a piece of clothing that you wear on your head

cap a type of flat hat that has a curved part sticking out at the front, and is often worn as part of a uniform

つまり、前のところにカーブした「つば」がついている場合に cap になると説明されている。

それでは、実際の辞書の説明のようになるのか結果を確かめてみる。

表 9: Cap とキャップと帽子で示した図







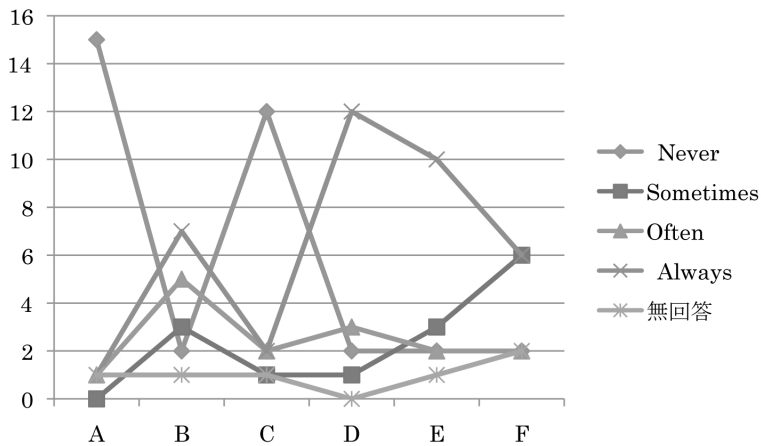
A	B	C
		
D	E	F
		

表 10 (p. 31) を見ると、辞書で述べられていた通り対象物 A の山高帽について「キャップを使うか」という質問に対して Never (全く使わない) を選んだ人が 83% (15/18 人)

表 10: 対象物に英語で cap を使うかという質問に対する結果



だった。自由記述には hat あるいは top hat という記述が多かった。意外にも、Always (常に使う) と often (どちらかと言うと使う) を選んだ人がそれぞれ 1 人ずついた。

一方で興味深かったのが、典型的なキャップである対象物 B の野球帽に対して、Always (常に使う) を選んだ人が 39% (7/18 人) だったことである。

それに関連して、対象物 B の野球帽より Always を選んだ人が多かった対象物が 2 つある。対象物 D の角帽と対象物 E の水泳帽である。対象物 D の角帽に対して Always を選んだ人が 67% (12/18 人) であった。また、対象物 E の水泳帽に対しても Always を選んだ人が 56% (10/18 人) であった。つまり、カーブしていることは cap の目立つ特徴であるが、それだけではなく、hat は下にぐると「ふち」がある帽子であり、cap は「ふち」がないものとして捉えていると考えられる。この際の「ふち」というのは極小さなものでも構わない。

実際に、折り返しという小さい「ふち」が付いた対象物 C の毛糸の帽子に対しては、hat あるいは pompom hat と呼ぶという記述が多く見られ、cap を使うかという質問には Never と答えた人が 67% (12/18 人) だった。

日本語でキャップというものを尋ねた質問の回答を表した表 11 (p. 32) は表 10 (p. 31) の英語の図形とよく似た形となった。Always と答えた人が多かった対象物も一致しており、同じように対象物 B の野球帽と対象物 D の角帽と対象物 E の水泳帽だった。

これが、日本語母語話者なら、対象物 D の角帽に対してはキャップというのはかなり違和感を感じるであろう。また、キャップというのがスポーティーなイメージがあるのに対して、角帽のアカデミックな場所での正装時にかぶるイメージとなかなか結びつかない。英語話者であっても、角帽をかぶるシーンは人生に何回もないだろうし、ましてやそれが日本語で何て言うかなど聞いたこともないだろう。このように判断が付かないものに関しては母語の知識を利用して答えていることがわかる。

それでは和語である帽子に対してはどのように捉えているのだろうか。

表 11: 対象物に日本語でキャップを使うかという質問に対する結果

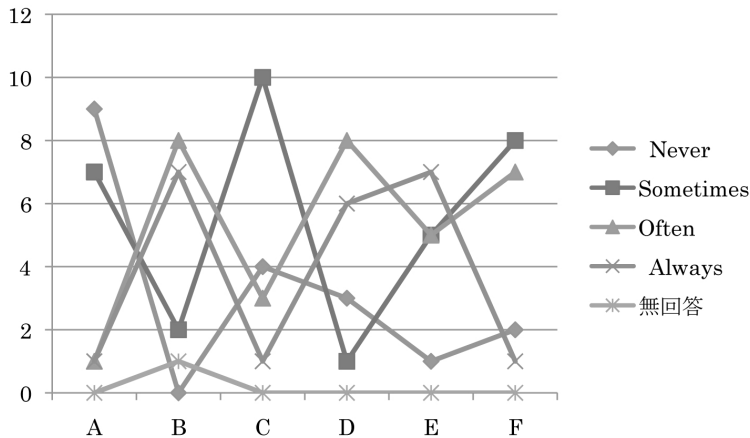


表 12: 対象物に日本語で帽子を使うかという質問に対する結果

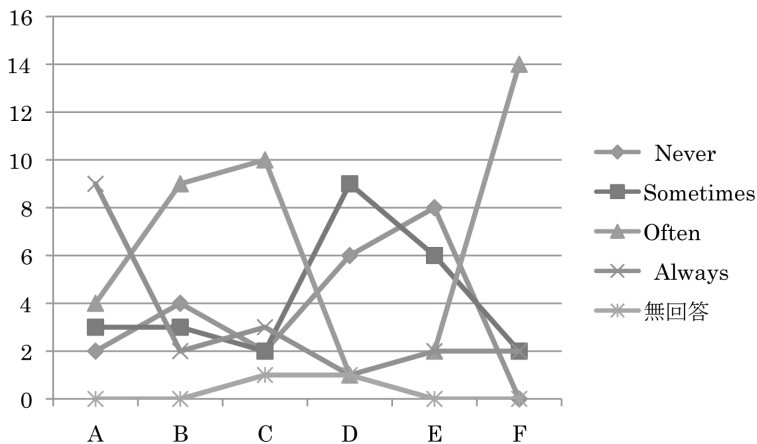


表 12 (p. 32) を見ると、対象物 A の山高帽に対しては英語の hat の守備範囲のため、Always を選んだ人が一番多く 50%(9/18 人)である。しかし、それ以外の対象物は、Always と答えた人がかなり低い。逆に Often を選んだ人が全体的に多く、対象物 F のハンチング帽に関しては 78%(14/18 人)が Often を選んだ。このように、全体的に Often と Sometimes が多い回答となっており、hat と帽子は違うのではないかと思いつつも、それがはっきりとしないという回答者の気分を表した結果になっている。

キャップの典型例である対象物 B の野球帽に対して「帽子」を使うかという質問に対して、Never(全く帽子を使わない)と答えた人は 4 人で、逆に Always(常に帽子を使う)と答えた人は 2 人だった。基本的に英語の cap と hat 区別をキャップと帽子に当てはめる傾向が見られるが、それでも、hat と帽子はなんとなく異なるものであると意識されてい

ることを伺わせる。

5.3 Gloves → グローブ (83 %) と手袋 (83 %)

最後に Gloves とグローブと手袋の結果について見ていく。この単語の使い分け面白いところは、日本語で手袋とグローブは全く別物で、これまでの対象物のように帽子とキャップ、お茶とティーのように、一つが他方の上位概念ではない単語になっていることである。

『大辞林』で手袋とグローブの記述を見てみる。

手袋 毛糸、または皮・布・ゴムなどで作り、手にはめる袋状のもの。防寒・保護・装飾などのために用いる。

グローブ ① 野球で、捕手・一塁手以外の野手が使う、5 指に分かれた革製の手袋。グラブ。→ミット ② ボクシングで用いる革製の手袋。

表 13: Gloves とグローブと手袋で示した図

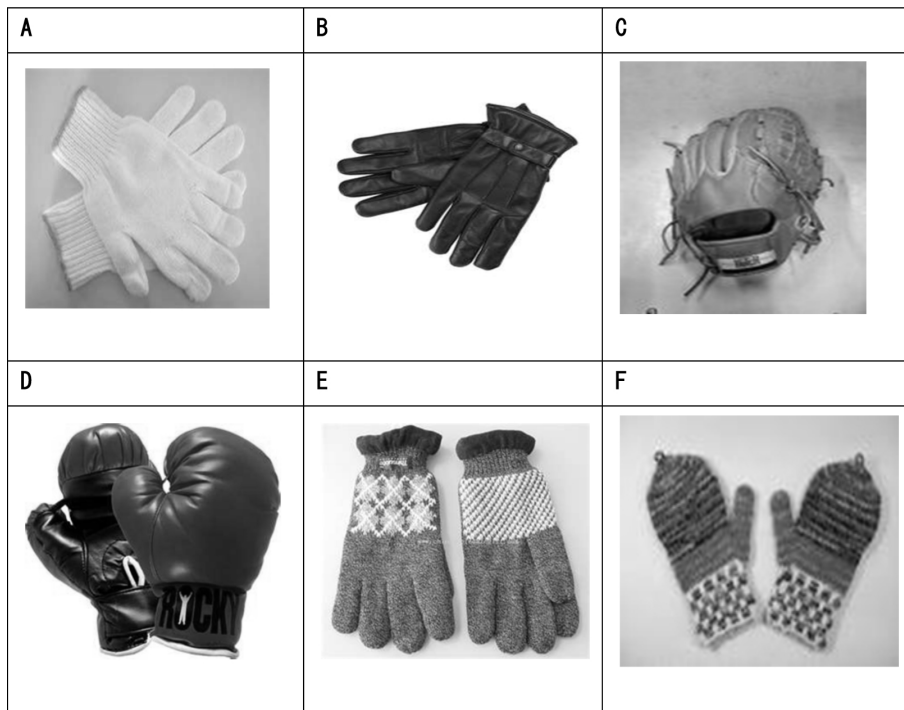
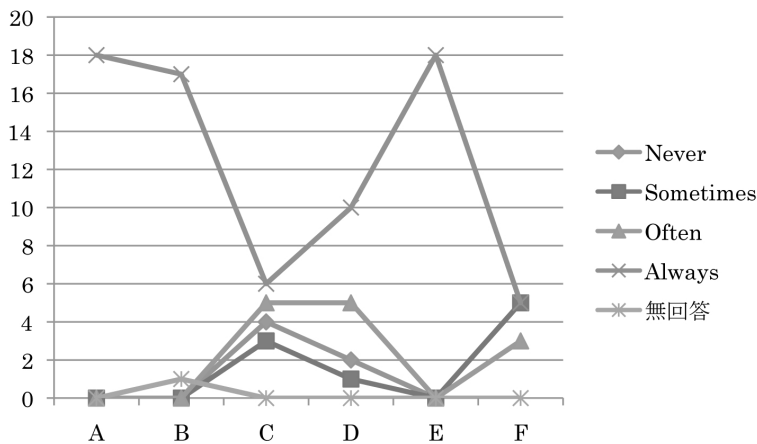


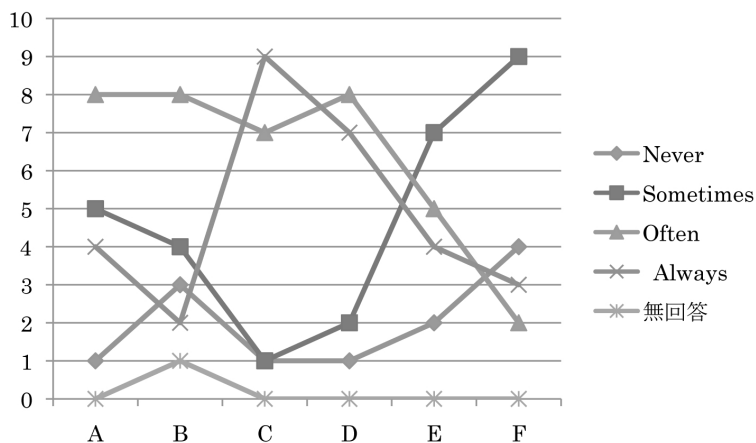
表 14 (p. 34) からわかるように英語話者はすべての対象物に対して gloves という単語を使うことに対して Always (常に使う) と答える回答が高い。特に対象物 A の革手袋と対象物 E の毛糸の手袋は 100 % の人が Gloves に対して Always (常に使う) という答えを選んだ。その中で、比較的 Always の割合が低いのが、対象物 C と対象物 F の 2 つで

表 14: 対象物に英語で gloves を使うかという質問に対する結果



ある。対象物 C の野球のミットは mitt、あるいは baseball mitt、baseball gloves という自由記述が多かった。同じく対象物 F のミトンに関しては mittens という記述が多かった。つまり、Gloves の下位分類として、手がくっついたタイプのものがあるので、Gloves でもわかるが、その単語を知っている場合はその方が適切だと考えているのだろう。

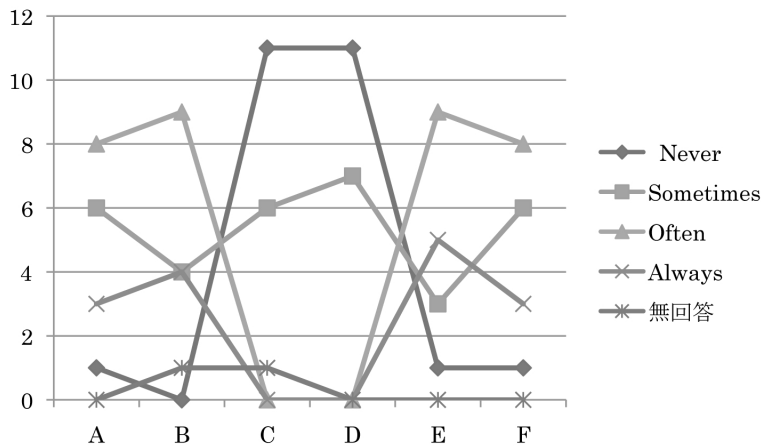
表 15: 対象物に日本語でグローブを使うかという質問に対する結果



英語では対象物 A の革手袋と対象物 E の毛糸の手袋は 100% の確信度を示したが、カタカナ語のグローブになると、それがかなり低下する。そして、対象物 C の野球のグローブに対して 50% (9/18 人) の人が Always を選んでいる。英語の gloves では対象物 C では Always を選ぶ人が一番少なかったのにも関わらず、日本語のグローブでは Always を選ぶ人が一番多くなっており、英語と日本語が全く逆になっている。

この結果から、英語では Gloves と呼ぶより mitt と呼ぶ方がよりふさわしいと考えられ

表 16: 対象物に日本語で手袋を使うかという質問に対する結果



る対象物が、日本語ではカタカナ語のグローブと呼ばれていることを理解していることが伺える。

キャップに関してはかなり英語の cap の影響を受けており、その違いは明示的ではなかったが、グローブと Gloves の違いについては英語とカタカナ語は違うということが意識されているのである。

この仮説を証明するもう 1 つの証拠がある。これらの対象物のうち手袋を使える物について聞いた表 16 (p. 35) の調査結果である。

対象物 C の野球のミットと対象物 D のボクシングのグローブは、日本語において手袋という単語を使うことができず、グローブとしか言えないものである。それらの対象物 C と対象物 D に対して Never (全く使わない) と答えた人が 61% (11/18 人) いた。

つまり、グローブと言えるかどうかは自信がないが、手袋とは絶対に言わないことを知っているのである。

6. まとめ

今回、英語母語話者の日本語学習者が、英語由来のカタカナ語をどのように捉えているかを調べるにあたって、以下の 2 点を検討課題とした。

- 検討するべき点 I・・・英語の単語とカタカナ語の意味のマッピング
- 検討するべき点 II・・・カタカナ語と和語の意味のマッピング

検討課題 I の英語の原語とカタカナ語のマッピングについて、cap とキャップのように、英語とカタカナ語が似たような分布を示したものもあったが、一方で gloves とグローブのように明らかに異なる分布を示したものもあった。つまり、カタカナ語は日本語の語彙の一種であり、カタカナ語と英語は異なるものであることを認識していることがわかった。

検討課題 II のカタカナ語と和語の意味のマッピングであるが、最もわかりやすい例がグローブと手袋であった。この二つは明らかに示す対象物が異なるため、違いがわかりやすい。そのため、キャッチャーミットやボクシンググローブに対して、「手袋」とは言わないということがかなり意識されていた。

一方で、ティーとお茶、キャップと帽子のように、意味範疇が全体部分関係を持っており、どちらかがどちらかの上位概念であるような、包摂関係を含んだ単語の使い訳はかなり混乱しており、あまり明確な結果はでなかった。

このことから、対象の異なる語彙の使い分けはその明確さから習得が早く、それ以外の使い分けはもっと日本語の習得が進まないとききないことが予測される。また、使い分けがわからない場合は母語の英語の知識を利用することがわかった。

今回の調査で、英語母語話者であっても日本語学習者は、日本語のカタカナと英語は違う物だと認識していることが改めてわかった。今後、これらの語彙のカテゴリーが日本語学習が進むと共にどのように変化していくのか調査してみたいと考えている。

文献

- 佐藤弘 (1994) 『外来語と英語のズレ—英語を学び、使う人のために—』八潮出版社
- 陣内 正敬 (1993) 『『さじ』と『スプーン』:外来語化と命名のゆれ』『言語文化論究』4号, 47-54. 九州大学言語文化部
- 陣内 正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化=言語と文化』11号, 47-60 関西学院大学
- 鳥飼玖美子 (2007) 「カタカナ語に見る意味のずれ」『月刊言語』2007年6月号, 52-59.
- 中山恵理子・桐生りか・山口昌也 (2008) 「日本語教育における『カタカナ教育』の扱われ方」『日本語教育』138号, 83-91. 日本語教育学会

使用辞書

- 松村明 (編) (1995) 『大辞林 第2版』三省堂
- 新村出 (編) (1988) 『広辞苑 第5版』岩波書店
- ロングマン (編) (2003) 『ロングマン現代英英辞典 4訂新版』桐原書店

参考ウェブサイト

リーディングチュウ太 (<http://language.tiu.ac.jp/tools.html>)

Author's web site: <http://www.shoin.ac.jp/>

(受付日: 2013.1.10)